

講座名（専門科目名）	連携大学院・病態制御基礎医学講座（医薬基盤・健康・栄養研究所 ワクチンマテリアルプロジェクト）	教授氏名	國澤 純
学生への指導方針	国立研究所という特色を活かし、基礎から実用化、社会実装につながる各ステップを学べるようになっています。これらの中で、科学的エビデンスをしっかりと取得出来るような研究者の育成を目指しています。		
学生に対する要望	ワクチン・創薬・機能性食品などの開発につながる基礎・実用化・コホート研究を行っています。これらの領域に関するやる気と興味を持っていることが必須条件です。		
問合せ先	(Tel) 072-641-9871 (Email) kunisawa@nibn.go.jp	担当者	國澤 純
その他出願にあたっての注意事項等	出願を見当されている方は、事前に研究室に連絡し、見学に来て下さい。		

（以下教室紹介）

A4判1枚〔両面可〕にてご作成ください

病態制御基礎医学講座は、連携大学院として大阪大学吹田キャンパスから車で10分、モノレールで2駅先に位置する彩都にある医薬基盤・健康・栄養研究所のワクチンマテリアルプロジェクトが担当しています。

主な研究テーマの一つとして、感染症に対するワクチンの開発を目指した研究を行っていますが、中でも近年、新しいワクチンとして注目されている粘膜ワクチンに着目しています。粘膜ワクチンとは“吸う、飲む”といった方法で粘膜組織を介してワクチンを接種することで、多くの病原体の初発感染部位である呼吸器や消化器、生殖器における免疫応答を惹起し、初発感染防御を誘導しようとするものです。粘膜ワクチンの開発を進めるにあたり、生体防御を担う感染免疫学は勿論のこと、基礎免疫学としての研究も進めています。

また「健康」「栄養」「腸内細菌」といったキーワードにも着目した研究を進めています。特に最近、健康との関係が注目されている腸内フローラや食事・栄養に着目し、食と腸内細菌の相互作用により產生される代謝物を含めた腸内環境因子による免疫制御とワクチン・アレルギー・炎症との関連といった観点からの研究を展開しています。これらの研究は動物モデルだけではなく、コホート（ヒト）を対象にした研究も遂行し、人類の健康維持や未病の抑制につながる研究へと発展させていくと共に、創薬や機能性食品の開発にもつなげるべく実用化研究としても進めています。さらに最近、新しい栄養学として注目されている「精密栄養学」という観点から、食の健康効果の個人差を規定する因子の同定といった基礎研究から、その人に適した食を提案するための社会実装型研究を進めています。

本講座は研究所という特性を活かし、医学だけではなく薬学、微生物学、農学、栄養学、理学、情報科学など様々な領域の研究者が様々な大学や企業から集まり、複眼的な観点から研究を進めています。また研究所の中においてもワクチンや免疫創薬、食品の開発、健康科学の発展を目的とした周辺領域の研究者が集った研究グループが形成され、所外の研究機関や大学、病院とタイアップも含めた研究体制が構築されています。

大学とは少し趣の異なる環境で研究を行うことも、今後の人生において良い経験になると思います。興味をお持ちの方は、一度見学に来て下さい。